

国際化推進の担い手を目指そう

— 高校生の皆様へ —

1. はじめに

- ①勉強不足の私は、不足している勉強を補うために、毎日のように勉強している。本も随分読むが勉強は本だけではない。どうせ勉強するなら、できるだけ熱心に、また、世の中の役に立ちたいという「使命感(ミッション)」に燃えているところで勉強したい。そのような場所を求め「武者修行」の「行者」のような生き方をしている。
- ②国内外の国際会議にも毎週のように参加。最近ひしひしと分かったことは、我々の住むアジアも、もうすぐ一つの大きな経済圏として生まれ変わるということだ。
- ③アセアンの国々は、日本や韓国だけでなく中国やインドと「自由貿易協定(FTA)」を結ぼうと熱心だ。今まであまり仲の良くなかった中国とインドも、経済の面では結構結びつきが強まってきた。人口5億人のアセアンの国々、人口10億人のインド、人口13億人の中国、それに人口2億人の日本と韓国が合わされば、人口30億人の大きな「地域」が出来上がる。
- ④この地域の中では工業品だけでなく、農産品や、サービス、知的所有権などが関税ほとんどなく、自由に取り引きができ、人や物お金も自分の国内と同じように自由になる時代がもう目の前に迫っている。アジア以外の国々とも日本は FTA を結んでいくだろう。このような意味での「国際化」がこの日本にも栃木県にももうすぐやってくる。そのような感覚が毎日する。武者震いがする。
- ⑤では、目の前に迫った「国際化」に備え、何をどうしたらよいか。一緒に考えよう。

2. 国際化推進の主役になろう。

- ①昨日のように今日があって、今日のように明日があればよいと思っている人に明後日はない。よく考えない人には良い未来はないのが、「国際化」時代の特徴だ。個人も、企業も、非営利組織も、国も県も、市町村も、外国とのあらゆる面での自由な行き来、つまり競争の中で生き残らなければならない。ではどうしたらいいのか。
- ②未来を見据えた上で、自分自身を確立することが最も大切だ。「私とはいったい何なのか」から始まって日本人とは、そして日本とは何か、「国の在りよう」まで考えて、初めて、異なった文化の人々と交わることができる。
- ③私は、毎日一回は「花伝書」「五輪の書」「奥の細道」「茶の本」「二宮翁夜話」などを、心を落ち着け、少し少し読んでいる。「能」や「狂言」、「浄瑠璃」も、少し少し鑑賞。日本食や伝統芸能も大好きだ。足利学校、東照宮雲巖寺など何回訪れても興味は尽きない。
- ④「関係は本質に先立つか」というテーマを上智大学教授の渡辺文雄先生からもらった。自分にとって異なったものを異なったものとしてそのまま受け入れ、関係の持ち方を少し考えることで、摩擦や紛争を避ける。このように異文化との関係の持ち方を考え続けることも、「国際化」では必要だ。
- ⑤ただ、何と言っても最大の課題は、アジアのみならず世界の共通語である「英語によるコミュニケーション能力」のつけかただ。

3. 英語でのコミュニケーション能力を身につけるには

- ①高校生であれば、学校の授業を最大限活用すること。授業は「スタート」ではなく、「ゴール」であると考え、素晴らしい結果が必ず出る。「予習」は分からないところをはっきりさせた上で授業に望むためにする。「予習」の段階で、分からないところ以外、正確に読め、何も見ないで書け、意味も分かり、練習問題も終了していることを目指すこと。辞書引きや、読む練習、書く練習を完全に済ませてから授業に出ること。ここまで「予習」として行ってから授業に臨まないから授業が「スタート」になってしまい、いつまでたっても英語が少しも身に付かない場合が多い。
- ②日本語の新聞を一日に一時間一面から読みよく内容の分かってるところだけ「Dairy Yomiuri」(英文読売)を一時間かけて読むことをおすすめする。(英字新聞を毎日一時間読む習慣を身につけること)。
- ③ NHK ラジオ第 2 放送の午後 2 時、7 時、11 時からの「15 分間の英語ニュース」をテープにとりながら毎日聞き、後について言えるまでにすること。
- ④毎日一ページ分以上、日記を英語でつけること。
- ⑤テーマを選びホームページで英語の文章を読むこと。

※積極的、戦略的な英語への取り組みで「国際化」の担い手になろう!!